

大本山永平寺

参拝旅行

平成十九年十月十四日(日)～十六日(火)の二泊三日で、永平寺参拝旅行が実施されました。三十六名の参加者となりました。御参加していただいた皆様、ありがとうございました。御参加していただきました皆様、ありがとうございました。御参加していただいた皆様、ありがとうございました。御参加していただいた皆様、ありがとうございました。



(木版画 徳光元堂所蔵)

※本年本堂の襖の張り替えは、十
六羅漢の木版画を使用する事と
なりました。七月二十七日(日)
八月一日(金)受付日の両日まで
には、完成していると思いき
すので、ぜひご覧下さい。



社内報

ふれんど

公想

株式会社 木下フレンド
木下 公夫

早朝からバスに揺られ午後4時頃に永平寺に着くと慌ただしく支度をして、我々の団体36名を含む100名以上の人が修業堂に集合しました。永平寺のNo.2にあたる80才を超える館長の講話の後、座禅となりました。静寂の中、耳に聞こえてくるのは呼吸をする音だけでした。午後7時過ぎに夕食となりました。食事は一人一人にお膳が用意され、その膳上には二椀(お椀1/3程度に盛られたご飯とみそ汁)、二皿(ゆで野菜と小麦粉で作った煮付け物、たくあん二切れ)が並んでおりました。まさに一汁一菜の食事です。食べ終るとご飯茶碗にお茶がつかれ、使用した箸、椀を洗った上で飲み干します(箸は各自で保管し、次の食事で降も再使用します)。「何も残さず、何も捨てず」一全く無駄がないのです。食事の後も全員でお経を唱和して、午後9時に消灯となり、一日目を終えました。

二日目は午前3時に起床。境内の中でも最も高い場所にある本堂で行われる法要を間近に見ることとなりました。200名を超える修行僧は整列し(その中には東光寺の俊成君の姿も見受けられました)本尊に真剣な眼差しを向けて



おりました。法要の儀式が始まると、修行僧たちは一斉に立ち姿勢から、膝をつき、また立ち姿勢に戻るといった動作を繰り返します。この修行僧の大集団による一糸乱れぬ、きびきびした動きにただただ圧倒されるばかりでした。夜明け前、大変に意義深い時間に立ち会うことができました。

今回の体験で特に印象的だったのは食事についての意識づけでした。食事(食物)は何人も人の手、苦勞を経て初めて私たちの口に入ります。そうした人々の苦勞の結晶である尊い食物を口に出来る有り難さをお経に盛り込むことにより何遍も何遍も唱えることになるのです。飽食の時代、忘れかけていた何かをハッと気づかされた瞬間でした。私自身、日頃は健康の為の食事制限すらままなりません。普段の日常生活の自由さ、豊かさとのギャップをつくづくと感じる二日間となり、大変に貴重で有意義な時間を過ごすことが出来ました。

十一月旬抄

内田美代吟

禅僧や 法話を胸に 秋深む
修行僧 振り向く母よ 深む秋
初もみじ 大海原や 波がしら

昨年の三月より、福井県にある大本山永平寺に修業に行つて来ました。十月にはたたくさんのお檀家さんが応援に来てくださり、大変うれしく感謝しております。お陰様で無事修業を終えて、今年の五月に戻つてまいりました。今後は東光寺の為にがんばって行きたいと思えます。皆様よろしくお願い致します。

渋谷 俊成
九拜

編集後記

今年の寺報はいかがでしたでしょうか。檀信徒皆様のより良い菩提寺となりますよう努力致しますので、今後ともよろしくお願い致します。お読みいただき、ありがとうございます。

